

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2021 年度



はじめに

JICA 海外移住資料館が 2002 年 10 月に開館し、19 年が経過しました。2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大が続いておりましたが、感染予防対策に対する皆様のご理解とご協力のお陰で、多くの方にご来館いただきました。リニューアル工事のため 11 月 29 日から休館としましたが、それまでの約 8 か月間の訪問者数は、18,850 人、開館以来の累計訪問者は 64 万人を超えました。これもひとえに資料の収集・展示・保管や調査研究活動、講座や各種の催しにご協力くださる関係者の方々、そして当館の活動を温かく支えてくださる地域の方々のお陰であり、厚く御礼申し上げます。

企画展示は、リニューアル工事の関係により「日系人のレシピ受け継がれる日本の味と家族の記憶」のみの開催でしたが、15,386 人の方にご覧いただきました。本展はキックマン国際食文化研究センターの協力のもと、各国における日系社会の食の変遷や特徴、また日系人の食卓をパネルや実物資料などで紹介しました。「食」は、いつの時代も多くの人々の関心であり、本展示がきっかけで当館を訪れた方もおられました。

また、オリンピック開催期間に合わせて開催したミニ展示「スポーツがつないだ日系社会」では、2016 年に開催した企画展示「二つのオリンピック—スポーツがつないだ日系社会—」のパネルを中心とした展示を 2 階回廊で開催しました。いつの時代でもスポーツは有力なコミュニケーションツールのひとつであり、人と人をつなぐ役割を果たすことがあります。スポーツから見える人々の交流をご紹介します展示となりました。

イベント関連では、今年度もオンラインイベントを中心に 13 回開催しました。これらイベントは、パラグアイの伝統工芸、JICA 海外移住資料館懸賞論文授賞者による講演会、サンパウロ人文科学研究所が実施した「多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査」に関する 3 回のシリーズ講演等、多岐に亘るものであり、国内外から多くの参加を頂き、当館をより多くの方に知っていただく機会となりました。

これに加え、神奈川県歴史博物館が中心となり、子どもたちに横浜市中区・

西区近隣にある博物館施設を知っていただき学んでいただくことを目的に毎年夏に実施している「ミュージアム・ミッション」へ今年も参加しました。

また、11月から1月にかけてはインターン生4名を迎え、間違い探しマップの作成と近隣施設での配架、オンラインワークショップの開催、Facebook等を通じた効果的な情報発信に積極的に取り組みました。

海外移住資料館 20 周年の節目を飾る一大事業となった常設展示の一部リニューアルは、①移住者を含む日系コミュニティの姿（過去と現在）を分かりやすく伝える、②これからの多文化共生に向けたヒントを提示する、③幅広い層に理解される展示を目指すという基本方針に基づき着工し、多くの関係者の皆様のご協力を頂くことで3月末に完工することができました。

日本国内や日系社会の世代交代が進み、かつては移民の送り出し国であった日本の歴史を知らない世代が増えています。一方で、人々の国を跨ぐ移動が活発になり、地元の横浜市、神奈川県だけでなく、日本全国には多くの外国人の方が暮らすなど、日本の「移住者の受入国」としての側面が目立つようになってきました。かつて日本人移民の方々が移住先で体験した異なる文化をもつ者との共存・共生は、今や日本社会において身近なものになっているのです。

このような日本における社会変化の中で、当館が海外移住の歴史や日系人・日系社会の姿をしっかりと伝える役割の重要性が増していると感じています。それに加え、日系人の皆さんや日系社会の経験から多文化共生につながるヒントがあると思っており、多文化共生社会に向けたメッセージもこれまで以上に発信していきたいと思っています。

引き続き当館の活動へご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JICA 海外移住資料館 館長 中根 卓

目 次

1. 展示・教育・広報

- (1) 展示イベント等1
- (2) 教育普及活動.....11
- (3) 広報活動.....19
- (4) アンケート調査.....21

2. 資料収集・整備

- (1) 資料等情報整備.....22
- (2) 情報システム.....25

3. 研究活動

- (1) 学術研究プロジェクト.....27
- (2) 研究紀要の発行.....27
- (3) JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」
募集事業28

4. 運営委員会・学術委員会

- (1) 運営委員会.....30
- (2) 学術委員会.....30

5. 各種実績等

(1)	貴賓来訪	31
(2)	その他	31
(3)	他館への資料貸出	31
(4)	各種実績データ	33

1. 展示・教育・広報

(1) 展示イベント等

1) 新型コロナウイルス感染拡大の対応およびリニューアル工事にともなう臨時休館

今年度も新型コロナウイルス感染下での運営となり、接触型機材の使用中止、ベルトパーテーションや消毒薬の設置、高頻度接触部位の定期消毒、団体訪問時の人数制限、展示解説の見合わせなどを行うとともに、イベントはオンライン型を継続した。

また、11月末からリニューアル工事にともなう臨時休館期間に入った。

臨時休館期間：11月29日（月）～3月31日（木）

※12～2月は、国別の移民史紹介パネル展示や、資料館だよりのバックナンバーを紹介する「資料館だよりに特集」を、JICA横浜センター内にて実施した。

2) 展示、イベント一覧

企画展示1 日系人のレシピ受け継がれる日本の味と家族の記憶

開催期間：4月27日（火）～11月21日（日）

開催期間中入館者数：15,386名

概要：移住先各国で発行されているレシピ集には、異郷の地において家族の食卓を守った女性たちのさまざまな料理への工夫や、家族・コミュニティへの貢献が記録されている。本展はキックマン国際食文化研究センターの協力のもと、当館で収集したレシピ集の一部を紹介し、日系社会における食の変遷や特徴、また各国の日系人の食卓を、パネルや実物資料等で紹介した。

来館者からは「食に関する展示には興味がある。日本の伝統を守っている現地の日系の方々の思いがすばらしい」、「今回紹介されている食事を自宅でチャレンジしたい！」などの感想が寄せられた。



ミニ展示 東京オリンピック・パラリンピック開催記念 スポーツがつないだ日系社会

開催期間：7月20日（火）～9月12日（日）

概 要：2021年に開催された、東京オリンピック・パラリンピックに合わせ、常設展示場内及び2階廊下にてミニ展示を開催した。2016年に開催した企画展示「二つのオリンピック—スポーツがつないだ日系社会—」のパネルを中心に、日系社会におけるスポーツ活動と日系アスリートの活躍について紹介。また東京オリンピック聖火トーチを借用し、当館所蔵の2016年リオオリンピック聖火トーチと共に展示した。



イベント1 「日系パラグアイ人のわたしと伝統工芸ニャンドウティ」

開催日：4月23日（金）19:00～20:00

参加者：169名※Zoomミーティングでの開催

概要：パラグアイ生まれの日系二世、岩谷みえエレナさんを講師に招き、パラグアイの伝統工芸である「ニャンドウティ」についてお話しいただいた。また、看護師・助産師として活躍された経験から医療従事者の目から見た日系社会、現在の拠点である日本での活動などをお話しいただいた。本講演会には169名もの参加者が集い、盛況のうちに会を終えた。



イベント2 第一回 JICA 海外移住懸賞論文 特別賞受賞者講演会「“フジヤマのトビウオ”とブラジル日系コロニアの戦後」

開催日：5月30日（日）11:00～12:00

参加者：82名※Zoomミーティングでの開催

概要：第一回 JICA 海外移住懸賞論文の特別賞受賞者で現在京都大学東南アジア地域研究研究所の乗松優氏を講師とし、「勝ち負け抗争」の混乱の渦中にあったブラジル日系社会に、「フジヤマのトビウオ」一行が与えた影響を当時の報道を引用しながら講演を行った。一般の方から研究者まで82名もの参加者が集い、盛況のうちに会を終えることができた。



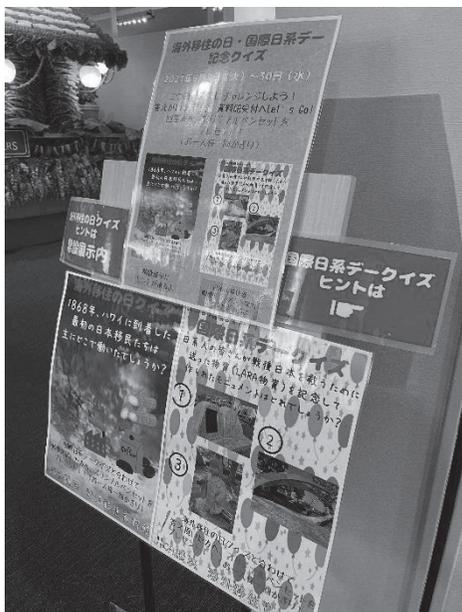
イベント3 「海外移住の日・国際日系デー記念イベント」

開催日：6月8日（火）～6月30日（水）

参加者：129名

概要：海外移住の日（6月18日）、国際日系デー（6月20日）にちなんで、6月8日（火）～30日（水）の20日間、各記念日に関連したクイズを出題した。

2つのクイズに回答いただいた方へ、当館オリジナルペンセットをプレゼントした。



イベント4 「連続講演会（全3回）世界最大の日系人コミュニティの実像～440カ所のリアルボイス～ 第1回 実態とその存在感」

開催日：7月17日（土）10:00～11:00

参加者：235名※Zoomミーティングでの開催

概要：サンパウロ人文科学研究所が実施した『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』をテーマに、3回シリーズの講演会を開催した。

第1回は「実態とその存在感」と題して、同調査プロジェクトチームの責任者である細川多美子さんを講師に迎え、調査の目的、手法、分析結果の全体像をご説明いただいた。



イベント5 「WEBで開催！ミュージアム・ミッション2021」

開催日：7月21日（水）～8月31日（火）

参加者：3660pv（サイト全体のPV数）

概要：横浜市内の関内・山手・みなとみらい地区のミュージアム巡りを、本年度もWEB上で開催した。様々なミュージアムが出題するクイズを「おうち時間」で楽しみながら解いていく本イベントに当館も参加し、移民船に関する問題を出題した。開催期間中、特設ページには3660pvのアクセスを記録した。



イベント6 「東京五輪（2021年開催）記念クイズ」

開催日：7月23日（金）～9月5日（日）

参加者：355名

概要：東京五輪（2021年開催）を記念して、五輪と日本人海外移住に関連したクイズを出題した。多くの来館者がクイズに回答してくださり、正解された方には当館オリジナルペンセットをプレゼントした。

A quiz question card with a grey background and white text. At the top, the word '問題' (Question) is written in a large, bold font. Below it, the question text reads: '東京五輪（2021年開催）で初の正式種目となった沖縄発祥の種目はなんですか？' (Which sport, originating from Okinawa, became the first official sport at the Tokyo 2020 Olympics?). Below the question, a hint reads: 'ヒント：「移民の七つ道具」コーナーの中にユニフォームがあるよ！' (Hint: There is a uniform in the 'Seven Tools of Immigrants' corner!). At the bottom, three options are listed: '1. 空手' (Karate), '2. 柔道' (Judo), and '3. 剣道' (Kendo). At the very bottom, there is a note: '正解が分かったら、資料館受付へLet's Gollクイズにお答え頂いた方へ、当館オリジナルペンセットをプレゼント！' (If you know the correct answer, please come to the library reception desk. We will give a gift of our original pen set to those who have answered the Let's Goll quiz!). The background of the card features silhouettes of various athletes in action.

イベント7 「世界最大の日系人コミュニティの実像～440カ所のリアルボイス～」 第2回 アマゾンから雪降る町まで、4000キロを貫く日系魂」

開催日：8月27日（金）19:30～20:30

参加者：179名※Zoomミーティングでの開催

概要：サンパウロ人文科学研究所の『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』をテーマにした3回シリーズの連続講演会。

第2回は「アマゾンから雪降る町まで、4000キロを貫く日系魂」と題して、第1回に続いて同調査プロジェクトチームの責任者である細川多美子さんを講師に迎え、ブラジル日系社会の今の姿を、日本祭りや盆踊りなど日本の伝統的な行事やイベントを通してお話いただいた。ブラジル日系社会の実情を知る良い機会になると共に、第3回講演会への足掛かりとなる講演会となった。



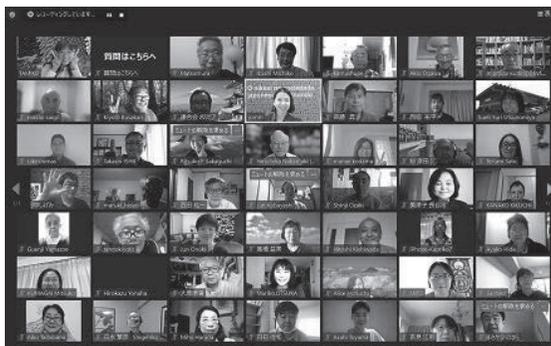
イベント8 「世界最大の日系人コミュニティの実像～440カ所のリアルボイス～」 最終回 ブラジルに残る日本人と日系人の痕跡」

開催日：9月25日（土）10:00～11:00

参加者：188名※Zoomミーティングでの開催

概要：サンパウロ人文科学研究所の『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査』をテーマにした3回シリーズの連続講演会。

最終回は「ブラジルに残る日本人と日系人の痕跡」と題して第1回、第2回に続いて同調査プロジェクトチームの責任者である細川多美子さんが講師を務め、さらに調査に携わった2名の方をゲストにお迎えした。文化の多様性を許容するブラジルという国で、日々の生活の中でもはや「当たり前」と思われているものの中に存在する、日本人・日系人たちが残してきたさまざまな痕跡を辿っていった。現代ブラジルの日系社会を知る機会になると共に、全3回にわたる講演会のしめくくりとなった。



イベント9 「よみがえった伝説の『バンクーバー朝日軍』 —カナダ日系人野球チームが貫いた不屈の精神—」

開催日：10月23日（土）11:00～12:30

参加者：97名※Zoomミーティングでの開催

概要：1914年にカナダの日本人街で誕生した日系二世の野球チーム「バンクーバー朝日軍」の講演会を開催した。『バンクーバー朝日軍』（2009年、東峰書房）の著者で朝日軍の初代エース投手だったテディ・フルモトの息子であるテッド・Y・フルモト氏に、伝説の野球チームの誕生から絶頂期の解散、その後の再評価までを、日系カナダ移民の歴史と重ね合わせながら、臨場感あふれる語り口でご紹介いただいた。日本人移民の増加により差別や迫害が起こっていた当時のバンクーバーで、フェアプレーを貫き、不利な状況にも屈しない青年たちの姿を通して、現代に生きる私たちにも困難に立ち向かう勇気やその尊さを教えてくれる物語だった。また、歴史に埋もれかけていたバンクーバー朝日軍を知る良い機会になった。



イベント10 「激動の歴史を生き抜いたキューバの日系人、120年の軌跡 —断絶、離散の歴史とこれから—」

開催日：11月20日（土）11:00-12:00（日本時間）

参加者：130名※Zoomミーティングでの開催

概要：キューバの日系人は、第二次世界大戦による強制収容、そしてその後のキューバ革命と、二度の大きな苦難に見舞われながらも、1200名を超える子孫たちがキューバ社会に溶け込んでたくましく暮らしている。今回の講演会では、三田村 JICA キューバ事務所長が、この知られざる日本人移民の歴史から今の姿までを、現地の日系人の方々から聞き取った生の声も交えながらご紹介し、キューバ日系社会の実情を知っていただく良い機会になった。

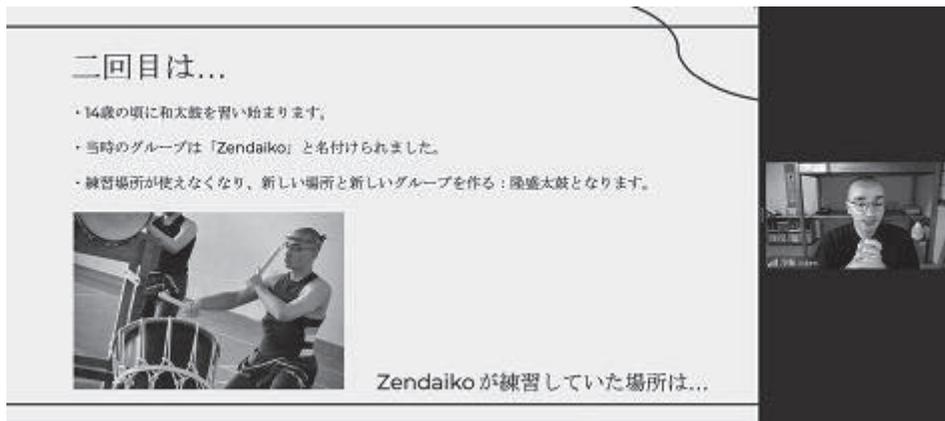


イベント11 「お坊さんはブラジル人—ブラジル人僧侶から見た日系社会と日本社会—」

開催日：12月17日（金）19:00-20:00（日本時間）

参加者：101名※Zoomミーティングでの開催

概要：ブラジルで生まれ育ち、現在は僧侶として日本で活躍中のフェルナンデス浄賢さんを講師にお招きし、サンパウロの東洋人街の寺院との出会いからこれまでの道のりをご紹介いただきました。日本では「仏教の僧侶＝日本人」という観念が根強い中、外国人僧侶としての活動を通じて感じたことや、活動中に遭遇した衝撃の事件など、異文化に飛び込んで体感したブラジル日系社会、日本社会について語っていただきました。



イベント12 「カーニバルから見たブラジルと日本」

開催日：1月28日（金）19:00-20:00（日本時間）

参加者：194名※Zoomミーティングでの開催

概要：第二回 JICA 海外移住論文の「エッセイ・評論部門」の最優秀賞受賞者講演会を開催した。

今回の講演会では、最優秀受賞作のエッセイ「知識の力 —カーニバルから見たブラジルと日本—」を執筆した片山恵さんに、演者として体感したカーニバルの魅力を、現場の声や写真を交えて伝えていただいた。原爆の山車の演出を巡って意見の相違が生じた要因を日本とブラジル双方の立場で考察し、異文化理解の一例としてご紹介いただいた。オンラインアプリ Zoomを使用した本講演会には、194名の参加者が集まり、原爆という惨劇の後世への伝え方について、再考する機会となった。



イベント13 「リニューアル前の海外移住資料館、最後の公開！」

開催日：2月26日（土）11:00-12:00（日本時間）

参加者：104名※Zoomミーティングでの開催

概要：「リニューアル前の海外移住資料館、最後の公開！」と称して、リニューアル前の常設展示場のバーチャルツアーを開催した。

資料館の映像とガイドの解説で、実際に館内で展示を見ているような感覚でお楽しみいただいた。当館ボランティアガイドの上床万佐子さんに、解説だけでなく常設展示場の主な展示品の説明や、展示にまつわるこぼれ話などを紹介いただいた。

さらにイベント後半では、リニューアル後の新しい展示の一部を先行してご紹介した。



イベント14 「世界最大の日系人コミュニティの実像～440カ所のリアルボイス～特別編 日系の風景、それなに？ それなぜ？」

開催日：3月26日（土）10:00-11:00（日本時間）

参加者：155名※Zoomミーティングでの開催

概要：昨年7月から9月に3回シリーズとして開催した「世界最大の日系人コミュニティの実像」の特別編として、今回はブラジル日系社会の諸相をサンパウロ人文科学研究所の理事等で、日系社会調査プロジェクトを主導した3名の登壇者に、座談会形式でご紹介いただいた。ブラジル日系社会で受け継がれてきた独特の日本食文化や日本語について、現地での体験談と写真を交えながら笑いあり驚きありのお話で、ブラジル日系社会の実像をより身近な話題から知っていただける機会になった。



公開講座 1

「しょうゆ 国境を越えてひろがる日本の味」

開催日：11月7日（日）11:00-12:30

講師：山下弘太郎氏（キッコーマン国際食文化研究センターセンター長）

受講者数：90名 ※Zoom ウェビナーでの開催

概要：日本の風土と食生活の中で生まれたしょうゆの起源から、キッコーマン醤油の歴史・海外展開などについて丁寧に解説いただいた。また、第二次世界大戦中に強制収容されていた日系人に、救恤品（きゅうじゅつひん：困っている人々への支援品）として醤油などが贈られたことが、戦後、感謝のしるしとして、海外から日本への支援物資（ララ物資）に繋がっていることも紹介いただいた。

参加者からは「醤油が江戸時代から海外に輸出されていたなんて知らなかった」「醤油についてさまざまな観点から触れられていて非常に勉強になった」などの感想が寄せられた。



(2) 教育普及活動

1) 教育プログラムの概要

当館では、日本人移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」の作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。未来に向けて、考え、解決すべき問題も多く存在している。私たちは、そうした問題に正面から向き合いながら、これからも、多様な人びとが共生できる社会を育み続けていかねばならない。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

<p>【学習活動の手引き】WEB公開</p> <p>この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示及び各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々の授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。</p>	
<p>【移民カルタ】貸出可</p> <p>日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。</p>	
<p>【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可</p> <p>このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、様々な工夫が凝らされている。(制作：移民カルタ研究会)</p>	
<p>【移民スゴロク】貸出可</p> <p>このスゴロクは、日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズとしても遊べるようになっている。小学生高学年以上対象。</p>	

【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全4種類。

- (上段左) 海を渡った日本人
- (上段右) カリナのブラジルとニッポン
- (下段左) ハワイに渡った日系移民
- (下段右) 弁当からミックスプレートへ



【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。

- ・野菜山車 (画像・トピックシート有)
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート (トピックシート有)
- ・移住斡旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・コーヒー用麻袋
- ・日系人が栽培している野菜
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ (トピックシート有)
- ・スパムセット
- ・Tシャツ (日系コミュニティのイベント等で使用されたもの)
- ・ブラジルの和菓子 (やぶれまんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、緑茶もち、金澤製菓画像。トピックシート有)
- ・ブラジル南米神宮のお守り (南米神宮画像、トピックシート有)
- ・ハワイのビッグファミリー (画像)



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】

- ・ブラジルの米
- ・ブラジルの干柿

これらの教材を実際見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。

なお、トピックシート（各教材の説明）に関してはホームページ上からダウンロード出来るよう対応されている。



【ブラジルの和菓子】

【定点解説キット】館内利用のみ

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。

- ・サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等）
- ・ミックスプレート（写真パネル）
- ・スーツケース（写真カード入小箱、トランク等）
- ・移住物語（写真アルバム、複製パスポート）
- ・花と製品あてゲーム
- ・農作業具（写真パネル）
- ・日系商店（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等）
- ・日系人の食卓（写真アルバム）
- ・イグアス（空撮写真、アルバム等）
- ・宝さがし（中高生向写真カード、ゾーンマップ）



【映像教材】貸出可

日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下8種類は貸出も行っている。

- ①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008年、53分）
- ②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009年、85分）
- ③DVD「JICA 横浜 海外移住資料館」（制作：2009年、11分）
- ④DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分）
- ⑤DVD「100年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011年、57分）
- ⑥DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013年、40分）
※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすずきじゅんいち監督より寄贈を受けた。
- ⑦DVD「Monica and Friends | 日本とブラジル友情の絆」（制作：2020年、11分）
※本映像教材はMauricio de Sousa Productions Japanより使用許諾を得た。
- ⑧DVD「Raíces メキシコ東部の日本人の子孫」（制作：2017年、17分）

【パスポート】

当館概要、海外移住の歴史、ワークシート、来館記念スタンプ用紙などを一つの冊子にまとめ、作成した。学生はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、見学後、見学した内容を簡単に振り返る事が出来るよう工夫されている。

2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、質問事項への対応等を実施した。長引くコロナ禍でも実施可能なプログラムとして、7月よりオンラインの教育プログラムを開始した。本年度の教育プログラム実施件数は107件、総受講者数は3,373名となった。オンライン実施を含めた四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	年度計
件数	20	16	58	13	107
総受講者数	1,100	426	1,503	344	3,373

※件数は実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(a) 第1 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立三保小学校	1	202
中学校	世田谷区立深沢中学校、日吉台中学校、座間市立相模中学校、横浜市立中区港中学校、相模原市旭中学校、座間市立座間中学校、座間市立東中学校、川崎市立川崎中学校、川崎市立西生田中学校、横浜市立上永谷中学校	10	492
高等学校	横浜市立戸塚高等学校定時制、横浜市立東高等学校	2	299
大学・専門学校	横浜国立大学（Jica Development Study Program）、横浜市立大学、明治学院大学心理学部教育発達学科比較・国際教育学ゼミ	3	48
その他	多文化共生・自治体政策研究会、横浜市上中里地区センター（外歩き講座）、NPO法人ブラジルSolidario横浜、UAゼンセン神奈川県支部	4	59
合計		20	1,100

(b) 第2 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立大鳥小学校	1	94
中学校	慶応義塾普通部（中学校）	1	36
高等学校	横浜商業高等学校	1	40
大学・専門学校	中央大学国際系学部、上智大学総合人間科学看護	6	144

学校	学部、桜美林大学リベラルアーツ群、お茶の水女子大学サマープログラム、名桜大学国際学群ポルトガル語圏・スペイン語圏コース（オンライン）、東海大学教養学部国際学科		
養護学校	神奈川県立鶴見養護学校岸根分教室	1	18
その他	2021年度1次隊JICA海外協力隊課題別派遣前訓練（日系社会講座）、JICA横浜教師国内研修（運営事務局：メディア総合研究所）、JICA横浜5年次経験者社会体験研修、JICA東京主催教員のためのSDGs研修、桜木町・大志学童クラブ、2021年度2次隊JICA海外協力隊課題別派遣前訓練（日系社会講座）	6	94
合計		16	426

(c) 第3 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立東市ヶ尾小学校、横浜市立大岡小学校	2	98
中学校	八王子市立元八王子中学校、町田市立町田第三中学校、小田原市立泉中学校、荒川区立第一中学校、町田市立堺中学校、神奈川学園中学校、豊島区立千登世中学校、川崎市立野川中学校、豊島区立明豊中学校、相模原市立新町中学校、府中市立府中第八中学校、中野区立第五中学校、渋谷区立笹塚中学校、相模原市立緑が丘中学校、豊島区立千川中学校、町田市立南中学、江戸川区立松枝第2中学校、杉並区立井草中学校	18	628
高等学校	川崎市立橘高等学校、山梨県立都留高等学校、東海大学付属望星高等学校、清真学園高等学校、神奈川県立神奈川総合高校、埼玉県立新座総合技術高等学校、明星高等学校	7	283
大学・専門学校	北里大学看護学部、法政大学社会学部（オンライン）、共立女子大学、東海大学教養学部国際学科、横浜国立大学、東洋大学社会学部社会福祉学科荻野ゼミ、東洋大学国際学部、大妻女子大学、東海大学万城目ゼミ、上智大学短期大学部、中央大学文学部、文化学園大学博物館学芸員課程博物館展示論・博物館情報メディア論クラス、立教大学社会学部林ゼミ、ラーモス日本語学校（オンライン）、神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科文化交流コース、東洋大学社会学部社会福祉学科荻野ゼミ、恵泉女学園大学フジオカゼミ、城西国際大学国際人文学部、神奈川大学市民講座エクステンション講座、中央大学商学部高松ゼミ（オンライン）、関東学院大学経済学部、成城大学法学部・専門演習（オンライン）	22	310

特別支援学校	横浜市立盲特別支援学校、立川市立第一中学校	2	43
その他	日本ボーイスカウト神奈川連名横浜第43団カブ隊、湘南探訪会（横浜シルバー人材センター港北事務所・同好会）、JICA中南米部、横浜市瀬谷区役所、2021年度2次隊JICA海外協力隊課題別派遣前訓練（日系社会講座）、西寿クラブ、横浜市教育委員会（よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト）	7	141
合計		58	1,503

(d) 第4 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立下末吉小学校	1	30
中学校	大田区立御園中学校、横浜市立浦島丘中学校、横浜市立上の宮中学校、川崎市立平中学校	4	161
高等学校	東京女子学院高等学校、代々木高等学校	2	73
大学・専門学校	法政大学第二高等学校、明治学院大学国際学部、明治学院大学国際学部（オンライン）、慶応義塾大学環境情報学部	4	39
その他	自衛隊横須賀病院准看護学院、学研山崎小前教室	2	41
合計		13	344

【プログラム例 大学生向け（1時間）】

- ① オンラインによる資料館見学

【プログラム例 高校生向け（1時間）】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 中学生向け（1時間）】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 小学生向け（1時間）】

- ① 学習教材のカルタを使用した体験学習
② 資料館見学



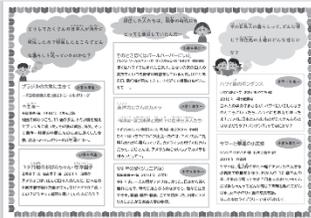
3) 教育プログラム関連業務

(a) インターン受入

JICA インターンシップ・プログラム制度によるインターン生計4名を、11月から1月の3か月間受け入れた。インターン生は、移住をテーマにした若者向けのオンラインワークショップや広報チラシの制作など、様々な企画を提案、実施した。

(b) 「おうちミュージアム」ページ

これまでのインターン生発案の各種企画をはじめとしたこども向けの教育コンテンツをまとめ、「おうちミュージアム」として当館 web ページに掲載している。

<p>【Monica and Friends I 日本とブラジル友情の絆】</p> <p>ブラジルの国民的アニメ、「モニカ&フレンズ」でブラジルへの日本人海外移住の歴史と、日本とブラジル両国の協力関係について解説している。日本語版に加えてポルトガル語版もあり、2言語での学習が可能である。</p>	
<p>【おうちでパスポートを発券してみよう!!】</p> <p>幕末から明治時代と明治時代から大正にかけてのパスポートを画像データにて再現し、自宅にしながら当時のパスポートの変遷を学ぶことができる。また、再現したパスポートで「渡航者は誰だ? ゲーム」も用意し、遊びを取り入れた学習機会も提供している。</p>	
<p>【ぬりえで日本人が移住した国を学んでみよう】</p> <p>日本人が移住した15カ国の国旗のぬりえをダウンロードし、ぬりえを通して日本人が移住した国を学ぶことができる。また、ダウンロードサイトには各国の面積や人口、日本人移住開始年などの基礎情報も掲載している。</p>	
<p>【移住をテーマにした本を読んでみよう】</p> <p>北・中南米へ移住した日本人の歴史や、日系人の暮らしがわかる絵本や小説を紹介している。対象年齢別に小学生以上と中学生以上があり、年齢に適した書籍を知ることができる。ここに掲載されている本はすべてJICA横浜 海外移住資料館の閲覧室に所蔵されている。</p>	

【日本人移民関連モニュメントマップ】

多くの移民を送り出してきた横浜には、日本人海外移民のための船が出発した港や宿泊施設があり、さらには移住地との友好関係を象徴するモニュメントが建てられている。これらの日本人移民関連モニュメントを記した地図を用いることによって、日本人移民の足取りをたどることができる。



4) ボランティア管理運営

(a) ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2021年度末時点で、登録者数は19名。なお、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により原則として活動を休止したが、オンラインでの資料館案内を実施した。

- ・第1 四半期：0人配置
- ・第2 四半期：3人配置（オンライン）
- ・第3 四半期：6人配置（オンライン）
- ・第4 四半期：3人配置（オンライン）

(b) ボランティア連絡会議の実施

本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を見送った。

(3) 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2021年度は2回発行。企画展示の内容をテーマに、展示内容及び資料館の活動などを紹介した。発行部数 7,000部。

主な配布先は、都道府県国際交流課及び国際課、指定都市国際交流課及び国際課、教育委員会や各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜及び川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の市区町村及び国際交流協会など、約400件。その他、常設展示場、閲覧室等で随時配布している。また、海外移住資料館ホームページでもバックナンバーを含め閲覧可能である。

No.	発行	コンテンツ
55	2021年 4月	特集 日系人のレシピ—受け継がれる日本の味と家族の記憶
56	2021年 8月	特集 在日日系コミュニティを探索！～多文化共生タウン・鶴見の魅力を大公開～



No.55



No.56

2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

(1) 外部媒体への掲載

鎌倉・横浜散歩2022／横浜みなとみらい21、マグカル・ドット・ネット／ニッケイ新聞・ブラジル日報／oricon news／yahooニュース／NGO Network JAPAN／横浜観光情報／Partner／RareA／ヨコハマ・アートナビ／神奈川新聞／日本ラテンアメリカ協会／MEGABRASIL／立教大学ラテンアメリカ研究所便り／読売新聞／バンクーバー新報／在日ブラジル商工会議所／ヨコハマ経済新聞／Living横浜／横浜商工会議所商工季報／湘南よみうり新聞、等

3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示及び企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞／神奈川新聞／産経新聞／東京新聞／毎日新聞／読売新聞／ヨコハマ経済新聞／共同通信社／時事通信社／ニッケイ新聞・ブラジル日報／NHK／JCOM／

TVK／日本テレビ／テレビ朝日／TBS／神奈川県政記者クラブ／横浜市政記者室等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化理解・共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

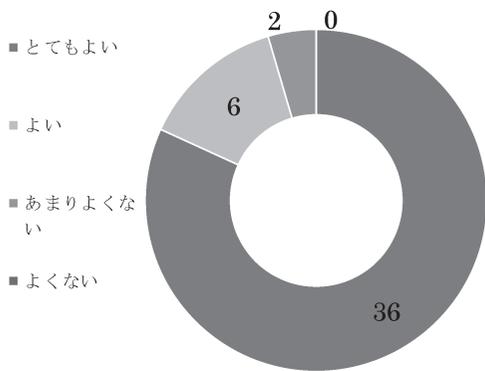
情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2021年度は計12回配信した。メールマガジンは月1回の配信を基本とし、配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2021年度末時点で、友の会会員は1,762名となった。

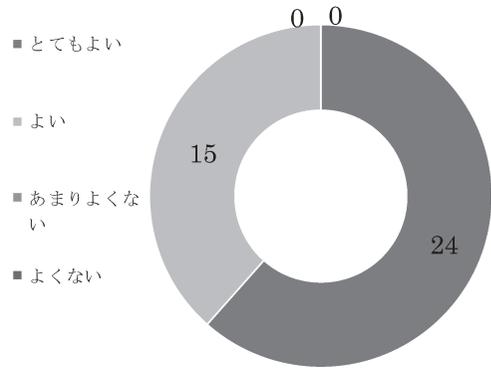
(4) アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した（展示ガイドによる展示解説はコロナウイルス感染症拡大のため実績無し）。回答総数は46件。4段階で評価いただいたが、すべての設問において、無回答を除いた有効回答の9割以上が「とても良い」「良い」を選択しており、大変良好な回答を得た。

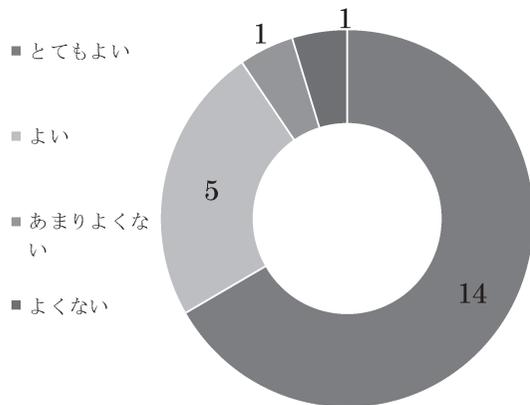
展示の内容



受付の対応



海外移住資料館だより



2. 資料収集・整備

(1) 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を、寄贈、購入、取得等の方法で収集し、登録した。また、前年度までに受入をし、未整理となっていた資料についても、整理、登録を行った。

2021年度受入・登録件数は490件。未整理資料の整理・登録件数は1,556件。

2021年度受入資料の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	5	17	5	59	86
購入	60	50	13	10	133
寄贈	73	21	86	87	267
移管	0	0	1	0	1
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	0	3
合計	138	90	106	156	490

未整理資料（2020年度以前受入資料）の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	43	54	2	55	154
購入	19	1	5	221	246
寄贈	161	326	223	75	785
移管	370	0	0	0	370
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	1
合計	593	381	231	351	1,556

2) 資料の整理

(a) 海外移住事業に関する所蔵資料 1. 移住申込書関係資料

旧海外移住センターに保管されていたJICA及びその前身機関が作成・収集した資料のうち、移住申込書関係資料について、これまで、整理作業を行ってきたが、今年度は、JICA沖縄センターから移管された移住申込書関係資料について、整理作業を実施した。

なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと実施している。

作業件数：移住申込書関係資料のスキヤニング 36件

スキヤン画像及びデータシートの確認・修正 170件

ファイナル作業 170件

(b) 海外移住事業に関する所蔵資料 2. 海外移住センター旧蔵アルバム類

旧海外移住センターに保管されていたJICA及びその前身機関が作成・収集した資料のうち、紙焼き写真、スライドフィルム、ネガ・ポジフィルム等が収められたアルバム類について、補修・デジタル化・目録及び画像データ公開の準備作業として、状態記録（写真撮影・スキャニング）、アルバムに記載されている解説等のテキスト入力、保存方法の見直しなどの作業を実施した。

作業件数：デジタル化済みアルバム 11点（テキスト入力 1,014件）
未デジタル化アルバム 306点（テキスト入力 35,499件）

(c) 海外移住事業に関する所蔵資料 3. 業務ファイル類

旧海外移住センターに保管されていたJICA及びその前身機関が作成・収集した資料のうち、業務ファイル類について、これまでも、整理作業を行ってきたが、今年度も、内容入力作業を実施した。なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと実施している。

作業件数：ファイル 18点

(d) 海外移住事業に関する所蔵資料 4. 機関誌類

JICA及びその前身機関が作成・発行していた機関誌類（広報用新聞、業務用冊子等）について、発行年の古い資料、利活用頻度の高い資料から優先的に、デジタル化を実施した。

また、JICA前身機関のうち、日本海外協会連合会（1954～1963年）、海外移住振興株式会社（1955～1963年）、海外移住事業団（1963～1974年）の時代に発行された資料については、留め金具の錆、酸化による紙面の変色や破れなどの劣化が多く見られたことから、必要に応じて補修を施した後、脱酸性化処理を実施した。

・スキャニング作業

作業件数：319紙、13,821ページ、10,825コマ（ファイル形式TIFF、解像度600dpi、カラー）

・補修及び脱酸性化処理作業

スキャニング作業実施済み資料の作業件数：321紙

スキャニング未作業資料の作業件数：664紙

(e) 伊藤一男関連資料

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長、『北米百年桜』著者）のご遺族より寄贈を受けた資料について、概要入力などの整理作業を実施した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと、実施している。

・概要入力作業

資料群ごとに写真撮影、資料番号及び分類記号を付与し、資料の内容を入力した。

作業件数：280件（資料群の数）／3箱（コンテナ数）

・新聞・図書抜出作業

今後の目録公開・閲覧提供を見据えて、新聞、図書として利活用できるものについて、各資料群から抜出をし、仮目録を作成する作業を実施した。

作業件数：新聞抜出作業 2,472件

図書抜出作業 643件

(f) 未整理標本類

収蔵品のうち未整理となっている標本類について、概要入力（仮登録）及び詳細入力（本登録）作業を実施した。

作業件数：概要入力（仮登録）778件

詳細入力（本登録）411件

(g) 図書資料等

既に登録されている図書資料等を対象とした書誌情報の修正、不足情報の追加、複本確認等の作業を実施した。

作業件数：3,138件

(h) 海外邦字新聞の収集・整理・データ化

2019年度より、「国内外の機関等による邦字紙等日系移民関連資料の保有状況の現況調査・インベントリー作成、収集・保存、当該資料の活用」を目的とした業務を継続して実施した。具体的な対象は、中南米で発行された及び現在も発行されている邦字新聞および雑誌、会報類である。

所蔵調査に関して、中南米邦字新聞を含めデジタル化・公開している「スタンフォード大学フーバー研究所邦字新聞デジタル・コレクション」の所蔵情報を調査した。今年度は、計3261部（「伯刺西爾時報」（ブラジル）、「日亜時報」（アルゼンチン）、「秘露日日新聞」（ペルー））のデータが追加されたことを確認した。

当館によるデジタル化に関しては、「学校法人日本力行会」に所蔵されているパラグアイの戦後邦字新聞「サンデーパラグアイ新聞」（1977年1月1日から1982年3月28日・4月4日合併号までの計81部800ページ）、およびアルゼンチンの戦前における地方日系人会会報誌「コルドバ日本人會々報」（1934年7月計46ページ）を、同会の協力を得てデジタル化した。

(i) その他

上記整理作業実施に伴う格納場所確保のため、収蔵庫各所において、資料の棚移動作業を実施した。

3) 収蔵環境の整備

(a) 特別清掃

一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫、情報処理室について、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

(b) 収蔵庫等の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫において、各種資料に適切な保存環境について確認、検討することを目的に、温湿度測定、環境モニター、パッシブインジゲータ、害虫調査を実施した。

(2) 情報システム

1) 情報検索システム

(a) 情報検索システム運用

閲覧室で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2021年度末時点登録数：26,575件（うち図書類：24,728件、標本類：1,847件）。

URL：http://search.jomm.jp/search/html/koukai/k_search.html

(b) 登録データの整備

既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は3,138件。

2) 海外移住資料館 web ページコンテンツ

(a) JICA 横浜 海外移住資料館 研究紀要

当館で行われた学術研究の成果を広く社会に発信することを目的として、2006年より刊行している『研究紀要』について、PDF版を製作し、当館Webページにて公開した。

URL：<https://www.jica.go.jp/jomm/outline/kiyo.html>



(b) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめている。また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。

現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。

- ・ 広島市デジタル移民博物館
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/dmshiroshima/map/>
- ・ オキナワボリビア歴史資料館
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/okinawabolivia/map/>
- ・ アルゼンチン日本人移民史
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/fana/map/>
- ・ ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
URL（デジタル展示日本語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_jp/
URL（デジタル展示スペイン語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_es/
URL（デジタル展示英語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_en/
URL（移民データベース日本語）：<http://dji.jomm.jp/jp/>



URL (移民データベーススペイン語) : <http://dji.jomm.jp/es/index.html>

- ・ 中南米移住地記録写真集 1964

URL : <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/1964top/index.html>

3. 研究活動

(1) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の3プロジェクトについて、今年度の活動を行った。学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

1) 日系カナダ人の経験を通してみる戦後の日加関係

【概要】2020年度まで継続して調査・研究してきたテーマ「第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献」を、さらに進め、文化面・学術面から戦後の日加関係を考察する。

【プロジェクトリーダー】飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）

2) 個人記録と移民史記述に関する多角的検討

【概要】個々の移民にかかわる日記・記録・書簡・創作といった一次史料としての個人記録の収集・整理・分析作業を中心に据えつつ、個人記録を公文書等の他の一次史料群や二次的な刊行物と接合させることにより、移民史記述へと昇華させてゆく方法について、これまでの研究蓄積を総合的に確認し、多角的に分析する。この作業を通じて、一次史料としての個人記録収集・整理・利用の精緻化と、移民史記述に有機的に組み込んでゆく方法の構築とを試みる。

【プロジェクトリーダー】柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

3) 海外への移動・移送と「絆」の視点からみるグローバルヒストリー

【概要】本プロジェクトの目的は、前プロジェクト「海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー」の問題意識や視座を継承しつつ、日本から海外（北米、ハワイ、オーストラリア）への、あるいは海外から日本への移動・移送が生み出す「絆」、そしてその「絆」に影響を受けてさらなる移動・移送へと続く現象を、グローバルヒストリーに位置づけることである。とくに、近年の研究によって解明されつつある移動の重層性や連続性に焦点を当て、「絆」の多重的な部分を明らかにする計画である。また、移動に多大な影響を与える法的な制度についても積極的に議論に含めていくつもりである。本プロジェクトが完了する2024年は、アメリカの1924年移民法（いわゆる「排日移民法」）の成立から100年目の年であり、移民にかかわる法的措置とその影響にあらためて注目することは意義深いと考えている。

従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的なものとみなし、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で移動・移送を考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトでは、19世紀半ばから20世紀半ばまでの人、もの、情報やリソースの移動とその連鎖について、移民法などの制度面と、個人の言動（人々の主体性）の両者に光を当て、とくに移動する人を支える「絆」について、さらなる検証を進めたい。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学教授）

(2) 研究紀要の発行

当館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第16号』を発行した（2022年3月発行）。論文題目等は以下のとおり。なお、第二回海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」募集における論文の部の授賞作品（2編）も収録した。

【論文】

複数の移住・移動と「家族」からみるアメリカ・センサス：
1860年のサンフランシスコにおける諸史料の検証
東京学芸大学・教授 菅（七戸） 美弥

「ワカマツ・コロニー」以後の人の移動とネットワーク
— 柳澤米子を中心に —
日本大学・准教授 北脇 実千代

田中貞吉再考 — 日本人ペルー移住とラテンアメリカの富源— (中)
慶應義塾大学・名誉教授 柳田 利夫

【研究ノート】

Locating Shipwrecked Persons in the Discussion to “Open” Japan
日本「開国」をめぐる議論にみる人の移動について
武蔵野美術大学・教授 小澤 智子

【資料紹介】

戦後カナダ移住に関する基礎史料 — 外務省外交史料館所蔵史料—
津田塾大学・名誉教授 飯野 正子
東洋学園大学・元教授 高村 宏子
外務省外交史料館・元副館長 原口 邦紘
東京外国語大学・兼任講師 木野 淳子

【第二回 JICA 海外移住懸賞論文 最優秀賞】

異境での戦時体験を記録して
— マリオ・ポテーリョ・デ・ミランダと岸本昂—を事例に —
大阪大学・特任助教 ソアレス モッタ フェリッペ アウグスト

【第二回 JICA 海外移住懸賞論文 優秀賞】

ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考：
バストスとレジストロの比較を通じて
柴田 寛之

(3) JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」募集事業

日本国内で多文化共生への社会的関心が高まるなか、日本人の海外移住の150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として国際協力機構（JICA）は2019年度に「JICA 海外移住懸賞論文」が創設された。

第二回の募集では、より関心の裾野を広げるため新たに「エッセイ・評論部門」を加え、テーマを「日本人の中南米への移住」として実施。計37件（論文7件、エッセイ・評論30件）の応募をいただき、2021年11月に審査結果を発表。それぞれの部門で最優秀賞1名及び優秀賞1名を決定した。
※肩書は受賞時のもの

1) 懸賞論文部門

【最優秀賞】

タイトル：異境での戦時体験を記録して
-マリオ・ポテーリオ・デ・ミランダと岸本昂-を事例に-

氏名：ソアレス・モッタ・フェリッペ・アウグストさん
(大阪大学大学院文学研究科国際交流センター 特任助教
グローバル日本学教育研究拠点 兼任教員)

賞金：50万円

【優秀賞】

タイトル：ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考：
バストスとレジストロの比較を通じて

氏名：柴田寛之さん (インディペンデント・スカラー)

賞金：5万円

2) エッセイ・評論部門

【最優秀賞】

タイトル：知識の力 -カーニバルから見たブラジルと日本-

氏名：片山恵さん (国際交流基金ブダペスト日本文化センター 日本語教育専門家)

賞金：20万円

【優秀賞】

タイトル：日本人の中南米移住に関する歴史継承と多文化共生

-沖縄県における移民の歴史啓発事業を事例に-

氏名：飯塚陽美さん (東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学コース
/多文化共生統合人間学プログラム博士後期課程)

賞金：5万円

第三回懸賞論文募集においても、前回に引き続き、日本人の中南米への移住に関する様々な研究結果およびエッセイ・評論を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高めることをねらいとして実施する。2021年12月に募集を開始し、応募締め切りは2022年6月末日までとなっている。

4. 運営委員会・学術委員会

(1) 運営委員会

当館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。同委員会は学識経験者および総務部長、中南米部長、国内事業部長、館長により構成される。2022年3月4日に、学識経験者として飯野学術委員長とオブザーバーに加用理事長特別補佐の出席を得て実施した。

(2) 学術委員会

当館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、JICA 横浜所長（海外移住資料館長）により構成される。

【2021年度 学術委員会開催】

- ・ 第1回 学術委員会（4月22日）
- ・ 第2回 学術委員会（5月26日）
- ・ 第3回 学術委員会（6月30日）
- ・ 第4回 学術委員会（8月6日）
- ・ 第5回 学術委員会（9月10日）
- ・ 第6回 学術委員会（10月22日）
- ・ 第7回 学術委員会（11月26日）
- ・ 第8回 学術委員会（12月21日）
- ・ 第9回 学術委員会（12月22日）
- ・ 第10回 学術委員会（1月18日）
- ・ 第11回 学術委員会（2月21日）

【2021年度 学術委員】

委員長	飯野 正子	津田塾大学理事・名誉教授
委員	中牧 弘允	吹田市立博物館特別館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂 岳雄	中央大学教授
	柳田 利夫	慶應義塾大学名誉教授
	中根 卓	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

5. 各種実績等

(1) 貴賓来訪

1) 横浜市会議長及び副議長の来館

7月1日、清水議長及び高橋副議長が海外移住資料館をご見学。多文化共生等について意見交換した。

(2) その他

1) 米州友好横浜市会議員連盟勉強会における所長講演会

6月4日、米州議連勉強会において「日本人の海外移住及び JICA 日系社会支援事業」というテーマで、中根所長が講演を行った。57名の議員の参加があり海外移住資料館及び関連 JICA 事業に高い関心がしめされた。

2) 常設展示一部リニューアル工事

①リニューアルアドバイザー4名委嘱し、設計から施工に関する検討を進めた。

【2021年度 リニューアルアドバイザー】

アンジェロ イシ	武蔵大学 教授
比嘉 マルセーロ	フェリス女学院大学 教授
原山 浩介	日本大学 准教授
村川 庸子	敬愛大学 教授

②リニューアル工事のため、11月29日（月）から3月31日（木）は臨時休館し、館内の別室にて関連展示を実施した。

3) 伊藤一男コレクションの寄贈感謝状贈呈式を開催

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長）が収集した資料（資料群約3,200件）の寄贈を受けて、9月30日に伊藤明子夫人らを迎え、寄贈感謝状の贈呈式を行った。

(3) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像 68 点	常設展示利用
4/1	日伯協会	図書 4 点、標本 35 点	常設展示利用
4/1	石川県	画像 3 点	
4/1	早稲田大学	画像 7 点	
4/14	ビー・ブレーション	画像 4 点	

7/1	盛岡市先人記念館	画像 2 点	
7/2	徳島ブラジル友好協会	パネル 10 点	
7/12	テレビ東京制作	画像 1 点	
7/21	青年海外協力協会	画像 1 点	
8/20	京都新聞社	画像 1 点	
9/24	新潮社	画像 1 点	
9/25	テレビ和歌山	画像 2 点	
10/19	名護市役所	画像 4 点	
10/21	人間文化研究機構	パネル 2 点	
11/17	JICA 中部	パネル 3 点	
11/29	青年海外協力協会	パネル 35 点	
2/4	日本財団	画像 3 点	
2/9	石川県海外移住家族会	パネル 11 点	
3/3	アルゼンチン支所	画像 7 点	
3/24	秋田テレビ	画像 1 点	

(4) 各種実績データ

2020年度業務実績一覧

2020.4～2021.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数				450	1,521	1,812	1,910	2,354	1,356	132	1,286	1,783	12,604
(前年度比)				15%	32%	49%	44%	54%	43%	4%	54%		29%
一般				450	1,486	1,590	1,714	1,611	1,154	129	1,189	1,367	10,690
学校関係				0	35	222	196	743	202	3	97	416	1,914
15歳未満				24	140	231	218	692	176	11	102	284	1,878
15歳以上				426	1,381	1,581	1,692	1,662	1,180	121	1,184	1,499	10,726
個人				438	1,414	1,561	1,699	1,611	1,148	132	1,160	1,325	10,488
団体				12	107	251	211	743	208	0	126	458	2,116
オンライン講座/公開講座参加者数							125	90	105	90	297	153	1,024

※開館からの累計: 624,536名

※2020年2月28日～7月20日まで新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため、記録なし

※2021年1月4日～2月9日まで空調工事のため臨時休館(別室にてミニ展示室を開催)

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数				2	5	8	11	21	7	0	2	9	65
実施対象人数				17	89	212	172	636	154	0	63	318	1,661
インターン受入人数(のべ)				0	0	2	2	4	2	1	0	0	11

※2020年2月28日～7月20日まで新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため、記録なし

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	3	4	12	40	27	40	36	45	22	37	38	45	349
JICA	1	1	0	3	1	3	4	1	2	3	2	0	21
教育機関	0	0	0	2	1	5	2	7	6	6	3	6	38
国内団体	0	0	0	5	6	6	6	14	1	2	5	4	49
個人	1	2	10	24	18	21	18	20	8	21	27	31	201
自治体	0	1	0	1	0	0	2	0	1	2	0	2	9
制作会社・マスコミ	1	0	2	5	1	5	2	3	4	2	1	1	27
国外団体	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	4

閲覧室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	33	9	83	56	89	88	110	81	81	59	60	115	864
(前年同比)	10%	4%	31%	21%	28%	45%	48%	22%	29%	19%	31%	174%	28%
一般	0	0	0	13	28	30	25	19	15	11	10	29	180
マスコミ等	0	0	0	2	4	6	10	7	11	0	0	8	48
JICA関係(業務)	33	9	83	41	57	52	75	55	55	48	50	78	636
JICA関係(研修)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	192	108	89	4	22	26	29	42	5	81	36	53	687
(うち取得)	0	0	11	3	3	2	6	32	2	29	16	17	121
(うち購入)	0	3	1	0	7	0	12	3	1	16	4	30	77
(うち寄贈)	192	105	77	1	12	24	10	7	2	36	16	6	488
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
(うち既存資料)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち寄託)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	2,440	4,064	5,143	5,295	2,636	2,617	3,050	3,219	3,891	3,136	3,040	2,977	41,508
Pages(利用数)	5,553	8,592	14,027	18,126	10,207	8,963	10,747	11,138	14,380	10,095	9,819	9,932	131,579

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	1,592	1,788	1,916	2,426	1,710	1,665	1,760	1,786	1,806	1,877	1,466	1,764	21,556
(前年同比)	117%	127%	135%	167%	109%	94%	103%	93%	104%	106%	83%	103%	110%
検索件数	371	435	700	1,081	1,045	795	1,181	2,892	1,391	1,117	565	1,015	12,588
(前年同比)	20%	49%	66%	126%	104%	92%	124%	216%	117%	88%	46%	199%	97%

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2021 年度

**発 行：独立行政法人国際協力機構横浜センター
海外移住資料館**

発行年月：2022 年 6 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-222-7162

Web : <https://www.jica.go.jp/jomm/>

E-mail : jicayic_jomm_info@jica.go.jp

